

平成23年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

調査目的・方法等

調査目的：文化庁が平成7年度から毎年実施しているもので、日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。

調査対象：全国16歳以上の男女

調査時期：平成24年2～3月

調査方法：一般社団法人中央調査社に委託し個別面接調査を実施

回収結果：調査対象総数 3,474 人
有効回収数(率) 2,069 人(59.6%)

目 次

1. 言葉の使い方について	
自分自身の言葉の使い方について、どの程度気を使っているか <問1>	3
ほかの人の言葉遣いなどが気になるか、気にならないか <問2>	4
日頃、言葉遣いで心掛けているのはどんなことか <問3>	5
2. 日本人の日本語能力について	
日本人の日本語能力が低下しているという意見について、どう思うか <問4>	6
3. 多様化する情報交換手段の日常生活への影響について	
情報交換手段の多様化が、日常生活にどのような影響を与えているか <問6>	7
4. 人とのコミュニケーションについて	
初めて会った人と話をする事について、どのように感じるか <問7>	8
【得意である(計)に対して】初めて会った人と話をするときに重視すること<問7付1>	9
【苦手である(計)に対して】初めて会った人と話をするときに難しいと感じること<問7付2>	9
日常生活で、どの程度敬語を使っているか <問9>	10
敬語を使うことに関して、どのような考えを持っているか <問10>	10
敬語を使うのは、どんなときか <問11>	11
状況に応じて、周囲の人にどのような行動をとるか <問13>	12
気配りなどを表す言葉のうち、使うことがあると思う言い方はどれか <問14>	13
5. 句読点等の使い方について	
句読点等の使い方に関して、何か困っていることがあるか<問15>	14
【「困っていることがある」へ】句読点の使い方に関して、どのようなことで困っているか<問15付>	14
句読点など、文書を書くときに用いる符号の使い方についてどのように思うか<問16>	14
6. 異字同訓の漢字の使い分けについて	
五つの異字同訓の漢字の使い分けについて、難しいと感じるか<問17>	15
異字同訓の漢字の使い分けについてどのように思うか<問18>	15
7. ふだんの言い方について	
「すごい速い」「がっつり食べよう」など、12の言い方をすることがあるか<問19>	16
8. 印刷文字と手書き文字の字形の違いについて	
印刷文字と手書き文字との字の形の違いが気になるか<問20>	17
9. 言葉の意味	
どちらの意味だと思うか <問22>	18
10. 慣用句等の認識と使用	
どちらの言い方を使うか <問23>	21

1. 言葉の使い方について

自分自身の言葉の使い方について、どの程度気を使っているか <問1> (P.3*)
 —「気を使っている(計)」は8割弱。3回の経年調査の中で最も高い—

*報告書のページを表す。

〔全体・過去の調査との比較〕

ふだん、自分自身の言葉の使い方について、どの程度気を使っているかを尋ねた。

「非常に気を使っている」と「ある程度気を使っている」を選んだ人を合わせた「気を使っている(計)」は77.9%、「余り気を使っていない」と「全く気を使っていない」を合わせた「気を使っていない(計)」は21.9%であった。

過去の調査結果(平成16年度調査)と比較すると、「気を使っている(計)」は7ポイント増加し、「気を使っていない(計)」は、7ポイント減少している。

(数字は%)

気を使っている(計)		気を使っていない(計)		分からない
77.9 [70.6][67.3]		21.9 [29.3][32.6]		
非常に気を使っている 9.8	ある程度気を使っている 68.1	余り気を使っていない 19.3	全く気を使っていない 2.7	0.1
[9.5] [7.9]	[61.0] [59.4]	[25.0] [29.4]	[4.3] [3.3]	[0.1] [0.1]

【 】内は平成16年度調査
 []内は平成9年度調査

〔年齢別・過去の調査との比較〕

年齢別に見ると、「気を使っている(計)」の割合は、60歳以上で7割に達していないのを除いて、全ての年代で8割を超えている。「気を使っていない(計)」は、60歳以上で3割強となっているのを除いて、全ての年代で1割台となっている。

過去の調査(平成16年度調査)と比較すると、「気を使っている(計)」の割合は、全ての年代で増加している。特に、16~19歳で26ポイント、30代で14ポイントと、増加の幅が他の年代に比べて大きい。

(数字は%)

	非常に気を使っている	ある程度気を使っている	気を使っている(計)	余り気を使っていない	全く気を使っていない	気を使っていない(計)	分からない
16~19歳	7.7 [3.6]	75.6 [54.2]	83.3 [57.8]	14.1 [33.7]	2.6 [8.4]	16.7 [42.2]	— [—]
20代	10.9 [5.5]	70.3 [66.0]	81.1 [71.5]	17.1 [24.0]	1.7 [4.5]	18.9 [28.5]	— [—]
30代	8.9 [6.6]	77.2 [65.9]	86.1 [72.6]	12.7 [26.0]	0.8 [1.4]	13.5 [27.4]	0.4 [—]
40代	10.0 [12.5]	75.7 [68.3]	85.6 [80.8]	13.5 [17.2]	0.9 [1.9]	14.4 [19.2]	— [—]
50代	10.2 [11.5]	73.4 [65.4]	83.7 [76.9]	13.0 [20.2]	3.3 [2.6]	16.3 [22.8]	— [0.2]
60歳以上	9.7 [10.1]	59.1 [52.1]	68.8 [62.3]	27.1 [30.1]	3.9 [7.3]	31.0 [37.5]	0.2 [0.3]

【 】内は平成16年度調査

ほかの人の言葉遣いなどが気になるか、気にならないか <問2> (P.5)

—「気になる(計)」は7割台半ば。平成19年度から5ポイント増加—

[全体・過去の調査との比較]

ふだん、ほかの人の言葉遣いなどが気になるか、それとも、気にならないかを尋ねた。

「非常に気になる」と「ある程度気になる」を選んだ人を合わせた「気になる(計)」は75.7%、「余り気にならない」と「全く気にならない」を合わせた「気にならない(計)」は24.2%であった。

過去の調査結果(平成19年度調査)と比較すると、「気になる(計)」は5ポイント増加し、「気にならない(計)」は、5ポイント減少している。

(数字は%)

気になる(計)		気にならない(計)		分からない
75.7 【71.0】		24.2 【28.9】		0.1
非常に気になる 14.8	ある程度気になる 60.9	余り気にならない 21.3	全く気にならない 2.9	
【14.4】	【56.6】	【23.2】	【5.6】	【0.2】

【 】内は平成19年度調査

[年齢別・過去の調査との比較]

年齢別に見ると、「気になる(計)」の割合は、30代~50代で8割を超えている。

過去の調査(平成19年度調査)と比較すると、「気になる(計)」の割合は、16~19歳を除く全ての年代で増加している。特に、60歳以上では9ポイント増加している。

(数字は%)

	非常に 気になる	ある程度 気になる	気になる (計)	余り気にな らない	全く気にな らない	気にならな い(計)	分から ない
16~19歳	12.8 【7.5】	50.0 【61.3】	62.8 【68.8】	33.3 【25.0】	3.8 【6.3】	37.2 【31.3】	— 【—】
20代	22.9 【13.6】	49.7 【57.6】	72.6 【71.2】	26.3 【26.0】	1.1 【2.8】	27.4 【28.8】	— 【—】
30代	12.0 【13.5】	71.0 【65.7】	83.0 【79.2】	16.6 【17.2】	0.4 【3.6】	17.0 【20.8】	— 【—】
40代	14.7 【13.7】	68.0 【67.0】	82.7 【80.7】	16.7 【16.7】	0.3 【2.6】	17.0 【19.3】	0.3 【—】
50代	14.1 【18.7】	66.5 【58.6】	80.6 【77.3】	17.5 【18.1】	1.9 【4.5】	19.4 【22.7】	— 【—】
60歳以上	14.6 【13.9】	55.9 【47.8】	70.5 【61.7】	24.0 【29.4】	5.4 【8.5】	29.4 【38.0】	0.1 【0.4】

【 】内は平成19年度調査

日頃、言葉遣いで心掛けているのはどんなことか <問3> (P.7)

— 「相手や場面に応じて敬語を使う」「自分が言われて嫌なことは人には言わない」が多い過去の調査結果（平成13年度調査）と比較して、全ての項目で選択する人の割合が増加 —

〔全体・過去の調査との比較〕

日頃、言葉遣いで心掛けていることはどんなことかを尋ねた（選択肢の中から幾つでも選択）。

「相手や場面に応じて敬語を使う」（73.5%）、「自分が言われて嫌なことは言わない」（69.8%）の割合が、他に比べて高くなっている。

過去の調査結果（平成13年度調査）と比較すると、全ての項目で選択する人の割合が増加している。特に「相手や場面に応じて敬語を使う」「汚い言葉や下品な表現は使わない」は、それぞれ16ポイント増加している。

		【平13年度】
・相手や場面に応じて敬語を使う……………	73.5%	58.0%
・自分が言われて嫌なことは人には言わない……………	69.8%	68.1%
・汚い言葉や下品な表現は使わない……………	51.8%	35.4%
・誰に対しても自分から挨拶する……………	44.3%	36.3%
・できるだけ分かりやすい平易な言葉を使う……………	43.6%	30.9%
・他人の話の腰を折らない……………	40.9%	33.6%
・自分の能力や持ち物などを自慢しない……………	37.6%	25.7%
・一応相手の考えを認めた上で、反論する……………	35.5%	24.2%
・大勢で話すときは、話題が適切かどうか、みんなが 話に加わり発言の機会に偏りがなかなどに気を配る……………	31.2%	20.4%
・自分の話し方の癖を（説教調、愚痴っぽい、早口など） できるだけ矯正しようとしている……………	22.1%	13.2%
・言葉遣いについて特に心掛けていることはない……………	3.6%	4.1%

2. 日本人の日本語能力について

日本人の日本語能力が低下しているという意見について、どう思うか <問4> (P.10)
 —「低下していると思う(計)」と考える人が、「読む力」「書く力」「話す力」「聞く力」の全てで多数 —

〔全体・過去の調査との比較〕

最近、日本人の日本語能力が低下しているという意見があるが、そのことについてそう思うか、それともそう思わないかを「読む力」「書く力」「話す力」「聞く力」のそれぞれについて尋ねた。

「低下していると思う(計)」は、「書く力」で87.0%、「読む力」で78.4%と特に高く、また、「話す力」「聞く力」もそれぞれ6割以上となっている。

過去の調査結果(平成13年度調査)と比較すると、「書く力」を除く全ての力で「低下していると思う(計)」の割合が増加しており、中でも「読む力」は10ポイント増となっている。

(1) 読む力

(数字は%)

低下していると思う(計)	変わっていないと思う	むしろ向上していると思う	分からない
78.4 [68.8]	16.6 [25.4]	1.3 [1.4]	3.7 [4.4]
非常に低下していると思う 20.2 [17.6] やや低下していると思う 58.2 [51.2]			

(2) 書く力

低下していると思う(計)	変わっていないと思う	むしろ向上していると思う	分からない
87.0 [88.1]	8.9 [7.7]	1.0 [0.6]	3.1 [3.6]
非常に低下していると思う 36.8 [37.5] やや低下していると思う 50.2 [50.6]			

(3) 話す力

低下していると思う(計)	変わっていないと思う	むしろ向上していると思う	分からない
69.9 [59.2]	23.9 [33.1]	3.2 [3.9]	2.9 [3.9]
非常に低下していると思う 19.5 [16.7] やや低下していると思う 50.5 [42.5]			

(4) 聞く力

低下していると思う(計)	変わっていないと思う	むしろ向上していると思う	分からない
62.1 [57.0]	33.1 [35.9]	1.8 [2.9]	3.1 [4.2]
非常に低下していると思う 13.2 [14.2] やや低下していると思う 48.8 [42.8]			

【 】内は平成13年度調査

3. 多様化する情報交換手段の日常生活への影響について

情報交換手段の多様化が、日常生活にどのような影響を与えているか <問6> (P.22)

— 「漢字を正確に書く力が衰えた」を選択した人が平成13年度調査から25ポイント増加 —

〔全体・過去の調査との比較〕

携帯電話や電子メールなどの普及による情報交換手段の多様化が、日常生活に影響を与えているという意見があるが、そのような影響の例として思い当たることがあるかを尋ねた（選択肢の中から幾つでも選択）。

「漢字を正確に書く力が衰えた」（66.5%）、「手紙やはがきは余り利用しないようになった」（57.2%）が過半数の人に選択されている。続いて、「手で字を書くことが面倒臭く感じるようになった」（42.0%）「口頭で言えば済むことでも、メールを使うようになった」（29.5%）

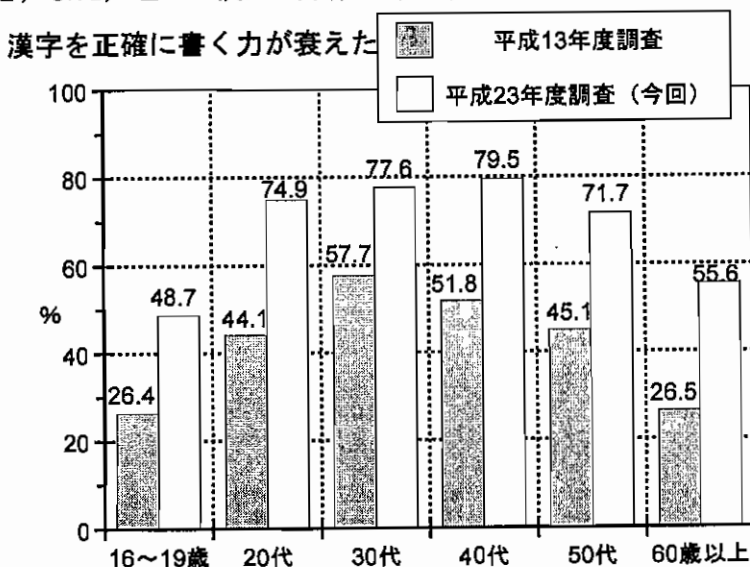
過去の調査結果（平成13年度調査）と比較すると、多くの項目で選択する人の割合が増加している。特に「漢字を正確に書く力が衰えた」を選択した人は25ポイント、「手紙やはがきは余り利用しないようになった」を選択した人は16ポイント、それぞれ増加している。また、「電車の中など公共の場所でも、自分だけの世界を作れるようになった」を選択した人の割合は、前回から約2.5倍に増加した。

一方、「特に思い当たることはない」を選択した人の割合は7.7%で、前回の21.4%から14ポイント減少している。

		【平13年度】
・漢字を正確に書く力が衰えた	66.5%	41.3%
・手紙やはがきは余り利用しないようになった	57.2%	41.6%
・手で字を書くことが面倒くさく感じるようになった	42.0%	31.9%
・口頭で言えば済むことでも、メールを使うようになった	29.5%	17.2%
・携帯メールの着信が気になって度々確認するようになった	22.2%	16.5%
・直接人と会って話すことが面倒くさく感じるようになった	18.6%	11.3%
・大した用もないのに携帯電話を掛けるようになった	18.1%	17.3%
・電車の中など公共の場所でも、 自分だけの世界を作れるようになった	16.6%	6.7%
・友人と常に携帯電話で連絡を取り合わないでは いられないようになった	7.9%	7.5%
・メールだと悪筆であることも関係ないので、 まめに発信するようになった	7.9%	6.7%
・漢字を多く使うようになった	4.3%	4.3%
・特に思い当たることはない	7.7%	21.4%

〔「漢字を正確に書く力が衰えた」年齢別・過去の調査との比較〕

今回の調査で、選択した人の割合が最も高かった「漢字を正確に書く力が衰えた」について、年齢別に見ると、また、過去の調査（平成13年度調査）の結果と比較すると、グラフのとおり。



今回の調査では、20代～50代で「漢字を正確に書く力が衰えた」と感じている人は7割台となっており、平成13年度には2割台だった16～19歳と60歳以上でも、それぞれ、5割弱と5割台半ばとなっている。

また、全ての年代で平成13年度調査の結果よりも今回の調査結果の割合の方が高くなっており、最も差の小さい30代で20ポイント、最も差の大きい20代では、31ポイントの差となっている。

4. 人とのコミュニケーションについて

初めて会った人と話をする事について、どのように感じるか <問7> (P.25)

—「苦手である(計)」は5割台半ばで、4割強の「得意である(計)」を上回る —

[全体]

初めて会った人と話をする事について、どのように感じるかを尋ねた。

「得意である」と「どちらかと言えば得意である」を選んだ人を合わせた「得意である(計)」は42.9%、「どちらかと言えば苦手である」と「苦手である」を合わせた「苦手である(計)」は55.5%であった。

(数字は%)

得意である(計)		苦手である(計)		分からない
42.9		55.5		
得意である 7.5	どちらかと言えば 得意である 35.4	どちらかと言えば 苦手である 46.5	苦手である 9.0	

[年齢別]

年齢別に見ると、「得意である(計)」の割合は、30代だけ4割を切っている。また、「苦手である(計)」の割合は、30代で6割弱となっており、他の年代より高い。

「苦手である」を選んだ人の割合は16~19歳で20.5%、20代で12.6%と、他の年代に比べて高くなっている。

(数字は%)

	得意である	どちらかと言え ば得意である	得意である (計)	どちらかと言え ば苦手である	苦手である	苦手である (計)	分から ない
16~19歳	6.4	39.7	46.2	33.3	20.5	53.8	—
20代	8.0	38.3	46.3	40.0	12.6	52.6	1.1
30代	6.9	32.4	39.4	51.0	8.1	59.1	1.5
40代	6.5	39.3	45.7	47.2	6.7	54.0	0.3
50代	9.1	36.6	45.7	47.4	5.8	53.2	1.1
60歳以上	7.4	33.2	40.6	47.0	9.7	56.7	2.7

【得意である(計)に対して】 初めて会った人と話をするときに重視すること<問7付1>(P.28)
 —「相手の話をよく聞く」「相手の目や表情を見て話す」「相手に不快感を与えないようにする」を重視 —

〔全体〕

問7で、初めて会った人と話をするについて、「得意である(計)」と回答した人に、初めて会った人と話をするときに、どのようなことを重視しているかを尋ねた(選択肢の中から幾つでも選択)。

「相手の話をよく聞く」と回答した人が7割を超え、「相手の目や表情を見て話す」「相手に不快感を与えないようにする」が約6割、「気持ちが伝わるように話す」が5割台半ばであった。

・相手の話をよく聞く	71	8%
・相手の目や表情を見て話す	60	8%
・相手に不快感を与えないようにする	60	5%
・気持ちが伝わるように話す	55	7%
・相手に気持ち良く話してもらうようにする	35	6%
・相手の言葉を引き出すような質問をする	30	4%
・自分しか知らないような言葉を使わないようにする	24	8%
・身振り手振りを交えて話す	20	2%
・エピソードなどを取り上げて具体的に話す	20	1%
・話す速さに注意する	15	7%
・論理的に話す	11	6%

【苦手である(計)に対して】 初めて会った人と話をするときに難しいと感じること<問7付2>(P.30)
 —「相手に不快感を与えないようにする」「気持ちが伝わるように話す」を難しいと感じる人が多い —

〔全体〕

問7で、初めて会った人と話をするについて「苦手である(計)」と回答した人に、初めて会った人と話をするときに、どのようなことが難しいと感じるかを尋ねた(選択肢の中から幾つでも選択)。

「相手に不快感を与えないようにする」と回答した人が4割台半ば、「気持ちが伝わるように話す」が3割台半ば、「相手の目や表情を見て話す」「相手に気持ち良く話してもらうようにする」「相手の言葉を引き出すような質問をする」「相手の話をよく聞く」が2割台であった。

・相手に不快感を与えないようにする	43	9%
・気持ちが伝わるように話す	36	4%
・相手の目や表情を見て話す	26	7%
・相手に気持ち良く話してもらうようにする	23	2%
・相手の言葉を引き出すような質問をする	21	1%
・相手の話をよく聞く	20	5%
・自分しか知らないような言葉を使わないようにする	17	4%
・論理的に話す	15	9%
・つかえないように話す	12	1%
・エピソードなどを取り上げて具体的に話す	11	1%
・身振り手振りを交えて話す	9	5%

日常生活で、どの程度敬語を使っているか <問9> (P.37)

—「使っている(計)」は7割台半ば—

〔全体・過去の調査との比較〕

日常生活で、どの程度敬語を使っているかを尋ねた。

「いつも使っている」と「ある程度使っている」を選んだ人を合わせた「使っている(計)」は76.3%、「余り使っていない」と「使っていない」を合わせた「使っていない(計)」は23.6%であった。

過去の調査(平成17年度調査)と比較すると、「使っている(計)」は2ポイント増加している。ただし、そのうち「いつも使っている」は4ポイント減少し、「ある程度使っている」は7ポイント増加している。

(数字は%)

使っている(計)		使っていない(計)		分からない
76.3 [73.9]		23.6 [25.9]		
いつも使っている 12.9	ある程度使っている 63.4	余り使っていない 20.8	使っていない 2.8	0.1
[17.3]	[56.6]	[22.9]	[3.0]	[0.1]

【 】内は平成17年度調査

敬語を使うことに関して、どのような考えを持っているか <問10> (P.39)

—「使いたい(計)」の割合は、「社会生活を営む上で」95.0%、「個人的な考えとして」87.8%と高い—

〔全体・過去の調査との比較〕

敬語を使うことに関して、(1)社会生活を営む上で、(2)自分自身の個人的な考えとして、それぞれ、どのような考えを持っているかを尋ねた。

「使いたい(計)」は、(1)社会生活を営む上で95.0%、また、(2)自分自身の個人的な考えとしてで87.8%と、共に高い割合となった。

過去の調査(平成17年度調査)と比較すると、「使いたい(計)」は、(1)社会生活を営む上で3ポイント、また、(2)自分自身の個人的な考えとしてで3ポイントと、共に増加している。それぞれ過去の調査でも高い割合を示しており、そこから更に3ポイント増加している。

(1) 社会生活を営む上で

(数字は%)

使いたい(計)		使いたくない(計)		分からない
95.0 [92.5]		4.5 [6.2]		
必要だから使いたい 72.9	使わざるを得ないので使いたい 22.1	できる限り使いたくない 3.9	全く使いたくない 0.7	0.5
[72.1]	[20.4]	[5.3]	[0.9]	[1.3]

(2) 自分自身の個人的な考えとして

(数字は%)

使いたい(計)		使いたくない(計)		分からない
87.8 [84.4]		11.5 [14.0]		
必要だから使いたい 58.1	使わざるを得ないので使いたい 29.7	できる限り使いたくない 10.1	全く使いたくない 1.4	0.8
[58.9]	[25.5]	[12.2]	[1.8]	[1.6]

【 】内は平成17年度調査

敬語を使うのは、どんなときか <問11> (P.44)

— 「年上の人と話すとき」「目上の人と話すとき」を8割以上の人を選択 —

〔全体・過去の調査との比較〕

敬語を使うのはどんなときかを尋ねた（選択肢の中から幾つでも選択）。

「年上の人と話すとき」（83.3%）、「目上の人と話すとき」（81.9%）が8割を超え、続いて、「知らない人（同年輩又は年齢が上と思われる人）と話すとき」（79.3%）「尊敬する人と話しているとき」（64.7%）の順となった。

過去の調査結果（平成17年度調査）と比較すると、「知らない人（同年輩又は年齢が上と思われる人）と話すとき」が12ポイント、「目上の人と話すとき」が6ポイント、「知らない人（明らかに年齢が下と思われる人）と話すとき」が4ポイント、それぞれ増加している。一方、「有利に話を進めたいとき」が11ポイント、また、「相手のことを立てたいとき」と「意識的に改まった感じを出したいとき」が7ポイント、それぞれ減少している。

		【平17年度】
・年上の人と話すとき	83.3%	82.7%
・目上の人と話すとき	81.9%	76.4%
・知らない人（同年輩又は年齢が上と思われる人）と話すとき	79.3%	67.2%
・尊敬する人と話しているとき	64.7%	64.8%
・相手のことを立てたいとき	39.1%	45.8%
・人間関係を円滑にしたいとき	38.5%	38.8%
・知らない人（明らかに年齢が下と思われる人）と話すとき	36.2%	32.3%
・意識的に改まった感じを出したいとき	33.5%	40.4%
・ものを頼みたいとき	33.1%	33.1%
・有利に話を進めたいとき	10.5%	21.7%
・上品さを表したいとき	10.3%	12.7%

状況に応じて、周囲の人にどのような行動をとるか <問13> (P.52)

— 公共の場所で、周囲の人に一声掛ける人が増加 —

〔全体・過去の調査との比較〕

ふだん、(1) 食堂で空いた席を見付けて座るとき、(2) 混んだ電車を降りるとき、(3) 劇場や映画館などで、中央にある自分の席まで行こうとすると、それぞれ、どのような行動をとるか尋ねた。

(1) 食堂で空いた席を見付けて座るとき、隣の人に対して「ここいいですか」などと尋ねると回答した人は79.3%，(2) 混んだ電車を降りるとき、入口の方にいる人に対して「すみません、降ります」などと声を掛けると回答した人は72.0%，(3) 劇場や映画館などで、中央にある自分の席まで行こうとすると、途中の席に座っている人に対して「前を失礼します」などと声を掛けると回答した人は81.0%となった。

過去の調査（平成10年度調査）と比較すると、尋ねたり、声を掛けたりする人の割合は、(1) で4ポイント、(2) で10ポイント、(3) で8ポイントと、それぞれ増加している。

(1) 食堂で空いた席を見付けて座るとき、隣の席の人に対して

(数字は%)

「ここ、いいですか」 などと尋ねる	無言で座る	場合によって、尋ねるこ とも尋ねないこともある	分からない
79.3	3.2	16.7	0.8
【75.5】	【3.6】	【20.2】	【0.6】

(2) 混んだ電車を降りるとき、入口の方にいる人に対して

(数字は%)

「すみません、降ります」 などと声を掛ける	無言で入口の方に進む	場合によって、声を掛ける ことも掛けないこともある	分からない
72.0	6.8	20.4	0.8
【61.7】	【9.4】	【28.0】	【1.0】

(3) 劇場や映画館などで、中央にある自分の席まで行こうとすると、途中の席に座っている人に対して

(数字は%)

「前を失礼します」 などと声を掛ける	無言で自分の 席まで進む	場合によって、声を掛ける ことも掛けないこともある	分からない
81.0	3.4	14.5	1.2
【73.7】	【5.7】	【19.0】	【1.7】

【 】内は平成10年度調査

気配りなどを表す言葉のうち、使うことがあると思う言い方はどれか <問14> (P.59)

— 平成10年度調査と比較すると、大半の言い方で使う人が減っている —

〔全体・過去の調査との比較〕

いろいろな場面での気配りを表す言葉のうち、使うことがあると思う言い方（似た言い方を含む。）を尋ねた（選択肢の中から幾つでも選択）。

「御無沙汰しております」（82.6％）を選択した人が8割を超え、「お役に立てなくて、すみません」（67.6％）、「つまらないものですが」（60.8％）の順となった。

過去の調査結果（平成10年度調査）と比較すると、多くの言い方で、使うことがあると答えた人の割合が減っている。特に、「おかげさまで、目の保養になりました」は11ポイント、「お口に合うかどうか分かりませんが」は10ポイント、「(料理を食べてもらった後)お粗末でございました」は9ポイント減少している。そのほか、「お伺いしたいのは山々でございますが」「もし、お手すきでしたらお電話口までお願いしたいのですが」を除く全ての言い方で、使うと答えた人の割合は減少している。

		【平10年度】
・(久しぶりで連絡するとき) 御無沙汰しております	82.6%	85.5%
・(頼みを断るとき) お役に立てなくて、すみません	67.6%	72.0%
・(人に贈物を渡すとき) つまらないものですが	60.8%	67.8%
・(会合などに誘うとき) よろしかったら(おいでになりませんか)	56.8%	64.3%
・(上達を認められたとき)(先生・皆様の) おかげでございます	52.3%	53.2%
・(食事を勧めるとき) お口に合うかどうか分かりませんが	44.8%	55.0%
・(誘いを断るとき) お伺いしたいのは山々ですが	40.3%	35.0%
・(依頼を断られたとき) どうぞお気になさらないでください	36.3%	41.4%
・(乾杯を指名されたとき) それでは、僭越ではございますが御指名によりまして	30.6%	37.8%
・(美術品などを見せてもらったとき) おかげさまで、目の保養になりました	30.5%	41.9%
・(電話で呼んでもらうとき) もし、お手すきでしたらお電話口までお願いしたいのですが	28.0%	27.7%
・(料理を食べてもらった後) お粗末でございました	27.3%	36.5%
・(腕前を褒められたとき) お恥ずかしゅうございます	16.8%	18.3%
・(歌や演奏を披露した後) お粗末でございました	13.1%	20.1%

5. 句読点等の使い方について

句読点等の使い方に関して、何か困っていることがあるか<問15> (P. 62)

— 「特に困っていることはない」が7割強 —

〔全体〕

文章や手紙、メールなどを書くときの句読点等の使い方に関して、何か困っていることがあるか、それとも特に困っていることはないかを尋ねた（選択肢の中から一つ選択）。

「特に困っていることはない」と回答した人の割合が72.7%であったのに対し、「困っていることがある」と回答した人の割合は24.1%であった。

(数字は%)

困っていることがある	特に困っていることはない	分からない
24.1	72.7	3.1

〔「困っていることがある」へ〕句読点の使い方に関して、どのようなことで困っているか <問15付> (P. 64)

— 「読点の使い方(どのようなときに読点を打つのか)」と回答した人が多い —

〔全体〕

問15で「困っていることがある」と回答した人(24.1%)に対して、文章や手紙、メールなどを書くときの句読点の使い方に関して、どのようなことで困っているかを尋ねた。(選択肢の中から幾つでも選択)。

「読点(テン、コンマ)の使い方(どのようなときに読点を打つのか)」(70.3%)と回答した人の割合が最も高かった。

・読点(テン、コンマ)の使い方(どのようなときに読点を打つのか)……………	70.3%
・行頭や行末の処理の仕方……………	34.1%
・横書きの際の読点としてテン(「、」)とコンマ(「,」)のどちらを使うべきか……………	25.3%
・句読点以外の符号(コロン「:」等)の使い方……………	24.6%
・括弧(丸括弧、かぎ括弧等)を綴じるときの句点(マル)の使い方……………	19.0%

句読点など、文書を書くときに用いる符号の使い方についてどのように思うか<問16> (P. 65)

— 「現状のままで特に困るようなことはない」と考える人が3割台半ばで最多 —

〔全体〕

句読点など、文章を書くときに用いる符号の使い方についてどのように思うかを尋ねた（選択肢の中から一つ選択）。

「使い方を分かりやすく整理し直した方が良い」と回答した人の割合は24.9%であった。一方、「現状のままで特に困るようなことはない」は34.8%であった。

(数字は%)

使い方を分かりやすく整理し直した方が良い	既に刊行されている辞書や書籍等を参考にして使えばよい	各自が使い方を判断すればよい	現状のままで特に困るようなことはない	分からない
24.9	18.0	19.6	34.8	2.7

6. 異字同訓の漢字の使い分けについて

五つの異字同訓の漢字の使い分けについて、難しいと感じるか<問17> (P. 67)
 — 「はかる」を除く4語では「難しい」との回答が多い —

〔全体〕

五つの異字同訓の漢字の使い分けについて、難しいと感じるか、それとも感じないかを尋ねた（選択肢の中から一つ選択）。

「難しい」と回答した人の割合が最も高かったのは「はかる（図る，計る，測る，量る，謀る，諮る）」で、42.4%であった。一方、最も低かったのは、「かたい（堅い，固い，硬い）」の21.3%であった。また、「はかる」以外の4語は「難しい」と回答した人の割合が過半数を超え、5割台半ばから6割台後半であった。

（数字は%）

	難しい	難しいくない	どちらとも言えない	分からない
おさめる（収，納，修，治）	31.5	56.5	11.1	0.9
かえる（変，換，替，代）	26.6	60.6	12.0	0.8
かたい（堅，固，硬）	21.3	67.1	10.6	1.0
はかる（図，計，測，量，謀，諮）	42.4	42.8	13.6	1.2
もと（下，元，本，基）	28.0	56.5	14.5	1.0

異字同訓の漢字の使い分けについてどのように思うか<問18> (P. 71)

— 「既に刊行されている辞書や書籍等を参考にして使い分ければよい」が3割を超え最多 —

〔全体〕

異字同訓の漢字の使い分けについてどのように思うかを尋ねた（選択肢の中から一つ選択）。

「使い分けの仕方を分かりやすく整理し直した方がよい」と回答した人の割合は23.2%であった。一方、「既に刊行されている辞書や書籍等を参考にして使い分ければよい」が32.7%、「現状のままで特に困るようなことはない」は25.1%であった。

（数字は%）

使い分けの仕方を分かりやすく整理し直した方がよい	既に刊行されている辞書や書籍等を参考にして使い分ければよい	漢字の使い分けに迷うようなときは仮名で書けばよい	現状のままで特に困るようなことはない	分からない
23.2	32.7	16.2	25.1	2.7

7. ふだんの言い方について

「すごい速い」「がっつり食べよう」など、12の言い方をすることがあるか<問19> (P. 73)
— 「1コ上」「むかつく」を使う人は過半数。「すごい速い」は5割弱が使用 —

〔全体・過去の調査との比較〕

「すごい速い」「あの人みたくになりたい」など、12の言い方をすることがあるかどうかを尋ねた。

「あの人は私より1コ上だ」(56.9%)、「むかつく」(51.7%)と言うと回答した人の割合が5割台となった。また、「あの人は走るのがすごい速い」(48.8%)も5割弱となっている。2割を切ったのは「寝る前に歯を磨くじゃないですか、その時に…」(17.7%)、「あの人みたくになりたい」(18.8%)の二つであった。

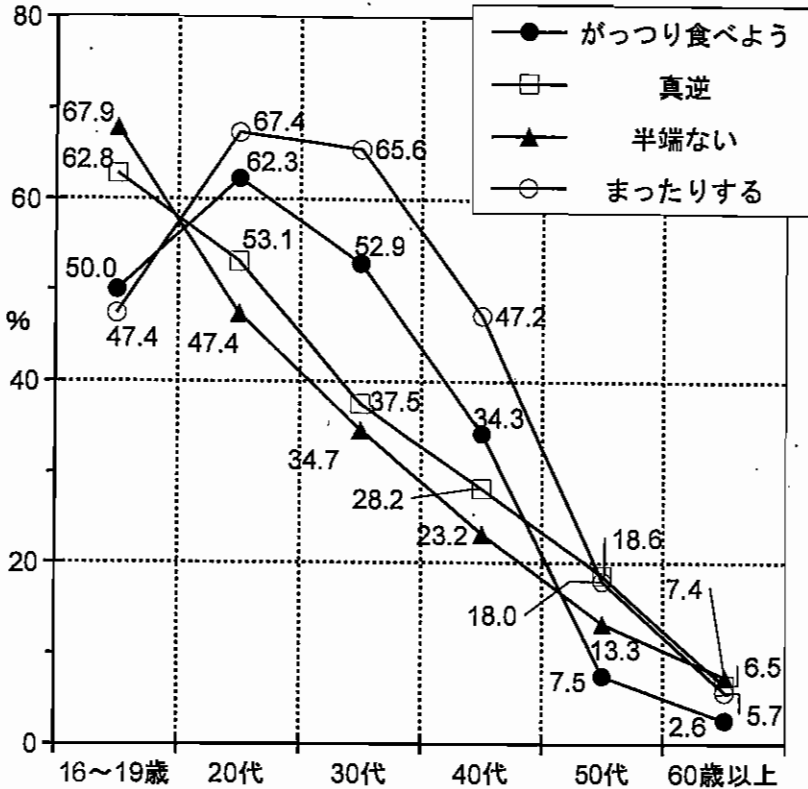
過去の調査(平成15年度調査。12の言い方のうち、八つの言い方について調査)と比較して、「ある」と回答した人が減少したのは「あの人みたくになりたい」「寝る前に歯を磨くじゃないですか、その時に…」「全然明るい」の三つの言い方であった。

(数字は%)

	ある	ない	分からない
「あの人は走るのが <u>すごく速い</u> 」ということをし、 「あの人は走るのが <u>すごい速い</u> 」と言う	48.8 【46.3】	50.3 【52.9】	0.9 【0.8】
「あの人 <u>みたいになりたい</u> 」ということをし、 「あの人 <u>みたくになりたい</u> 」と言う	18.8 【19.9】	80.4 【79.6】	0.7 【0.5】
「 <u>なにげなく</u> そうした」ということをし、 「 <u>なにげに</u> そうした」と言う	28.9 【23.5】	70.3 【75.7】	0.8 【0.8】
「あの人は私より <u>1歳上だ</u> 」ということをし、 「あの人は私より <u>1コ上だ</u> 」と言う	56.9 【50.8】	42.4 【48.8】	0.7 【0.4】
「 <u>とてもきれいだ</u> 」ということをし 「 <u>チヨーきれいだ</u> 」と言う	26.2 【21.4】	73.3 【78.2】	0.4 【0.4】
「 <u>腹が立つ</u> 」ということをし 「 <u>むかつく</u> 」と言う	51.7 【48.1】	48.0 【51.3】	0.3 【0.5】
「寝る前に歯を磨きます。その時に…」ということをし、 「寝る前に歯を磨くじゃないですか、その時に…」と言う	17.7 【19.2】	81.2 【78.9】	1.1 【1.9】
「 <u>とても明るい</u> 」ということをし、 「 <u>全然明るい</u> 」と言う	20.0 【20.7】	79.5 【78.6】	0.5 【0.6】
「 <u>しっかり、たくさん食べよう</u> 」ということをし 「 <u>がっつり食べよう</u> 」と言う ※	21.8	77.5	0.7
「 <u>正反対</u> 」ということをし 「 <u>真逆(まぎやく)</u> 」と言う ※	22.1	77.4	0.5
「 <u>中途半端でない</u> 」ということをし 「 <u>半端ない</u> 」と言う ※	20.1	79.5	0.4
「 <u>ゆっくり、のんびりする</u> 」ということをし 「 <u>まったりする</u> 」と言う ※	29.0	70.4	0.6

【 】内は平成15年度調査
※ は今回初めて調査したもの

ふだんの言い方 (初めて調査した語)



〔年齢別 (初めて調査した語)〕

今回初めて調査した四つの言葉(「がっつき食べよう」「真逆」「半端ない」「まったりする」)について、年齢別に見ると、左のグラフのとおり。

四つの語の全てで、年齢が上がるにつれて、これらの言い方を使うことがあるという人の割合が低くなる傾向がある。「真逆」と「半端ない」を使う人の割合は、16~19歳で共に6割台となっているのをピークに、年齢が上がるにつれて、グラフが直線に近い形を描くように低くなっている。また、「まったりする」と「がっつき食べよう」を使う人の割合は、共に20代で割合が最も高くなっており、「まったりする」は20代と30代で、「がっつき食べよう」は20代で、それぞれ6割台となっている。

8. 印刷文字と手書き文字の字形の違いについて

印刷文字と手書き文字との字の形の違いが気になるか<問20> (P. 79)

— 「保」は2割台後半、「令」は2割台半ばが「気になる」と回答 —

〔全体〕

五つの漢字について、左に印刷文字、右に手で書いたときの文字の一例を示し、印刷文字と手書き文字との字の形の違いが気になるか、それとも気にならないかを尋ねた。

「気になる」と回答した人の割合は、「衣」(13.7%)、「家」(9.0%)、「心」(11.0%)では1割前後であるが、「保」(27.9%)では2割代後半、「令」(25.2%)では2割台半ばであった。

(数字は%)

印刷文字 — 手書き文字	気になる	気にならない	分からない
衣 — 衣	13.7	86.0	0.3
家 — 家	9.0	90.6	0.3
心 — 心	11.0	88.7	0.3
保 — 保	27.9	71.8	0.3
令 — 令	25.2	74.4	0.3

9. 言葉の意味

どちらの意味だと思うか <問22> (P.89)

—「うがった見方をする」「にやける」「失笑する」「割愛する」は

本来とは違う意味の方が多く選択されている —

[全体]

五つの言葉を挙げて、どの意味で使っているかを尋ねた。辞書等で本来の意味とされるものに下線を付け、また、グラフ中では——の線で示した。

今回尋ねた五つの言葉のうち、(2)「うがった見方をする」、(3)「にやける」、(4)「失笑する」、(5)「割愛する」は、本来の意味ではない方が多く選択されるという結果となった。(1)「煮え湯を飲まされる」は本来の意味を選択する人の割合の方が多かった。

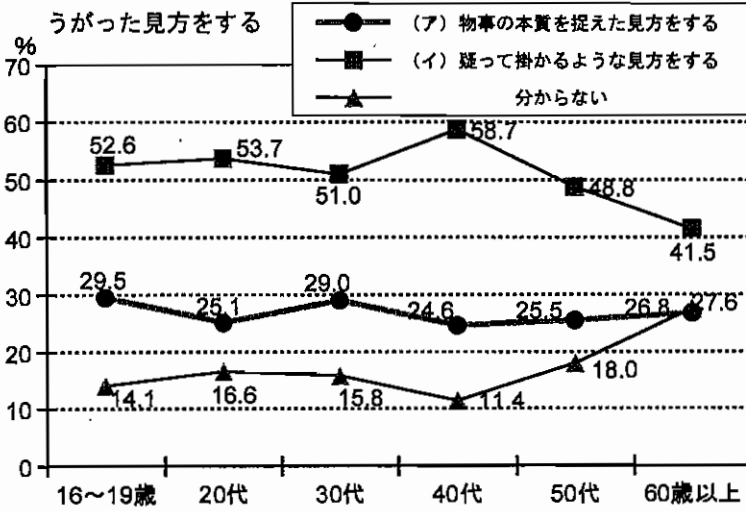
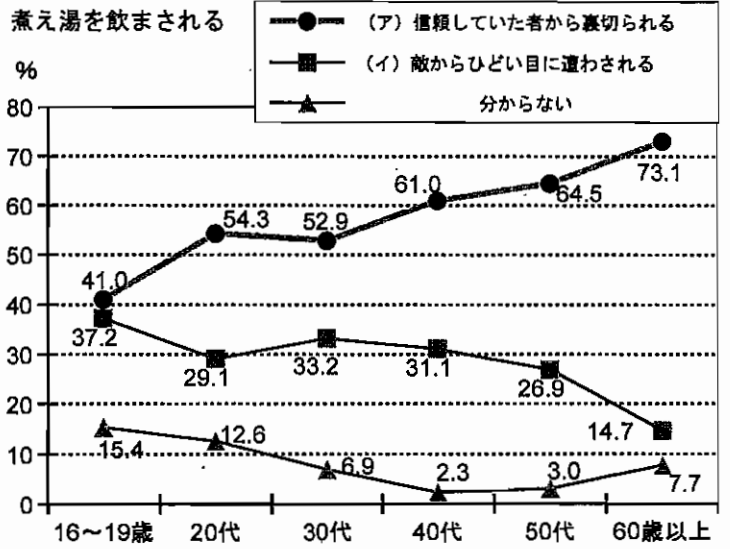
煮え湯を飲まされる	
(ア) <u>信頼していた者から裏切られる</u>	64. 3%
(イ) 敵からひどい目に遭わされる.....	23. 9%
(ア)と(イ)の両方.....	3. 9%
(ア),(イ)とは全く別の意味.....	1. 3%
分からない.....	6. 6%
うがった見方をする	
(ア) <u>物事の本質を捉えた見方をする</u>	26. 4%
(イ) 疑って掛かるような見方をする.....	48. 2%
(ア)と(イ)の両方.....	2. 1%
(ア),(イ)とは全く別の意味.....	2. 9%
分からない.....	20. 3%
にやける 例文：彼はいつもにやけている。	
(ア) <u>なよなよとしている</u>	14. 7%
(イ) 薄笑いを浮かべている.....	76. 5%
(ア)と(イ)の両方.....	3. 0%
(ア),(イ)とは全く別の意味.....	3. 0%
分からない.....	2. 8%
失笑する 例文：彼の行爲を見て失笑した。	
(ア) <u>こらえ切れず吹き出して笑う</u>	27. 7%
(イ) 笑いも出ないくらいあきれん.....	60. 4%
(ア)と(イ)の両方.....	2. 7%
(ア),(イ)とは全く別の意味.....	4. 1%
分からない.....	5. 2%
割愛する 例文：説明は割愛した。	
(ア) <u>不必要なものを切り捨てる</u>	65. 1%
(イ) <u>惜しいと思うものを手放す</u>	17. 6%
(ア)と(イ)の両方.....	1. 7%
(ア),(イ)とは全く別の意味.....	3. 3%
分からない.....	12. 3%

〔年齢別〕

年齢別に見ると、次のとおり。

(1) 煮え湯を飲まされる

全ての年代で、本来の意味である(ア)「信頼していた者から裏切られる」を選んだ人の割合が、本来の意味ではない(イ)「敵からひどい目に遭わされる」を上回っている。また、年代が上がるに従って、(ア)を選択した人の割合が増え、(イ)の割合が減る傾向がある。16~19歳では(ア)を選択した人の割合が4割弱となり、他の年代より低い。

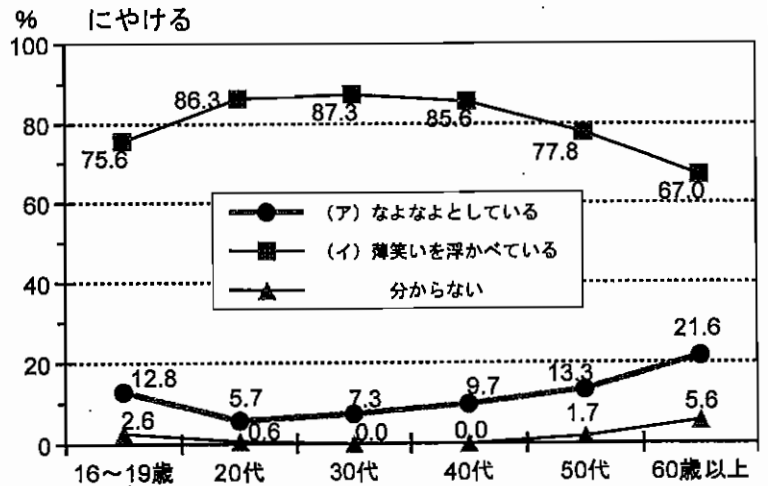


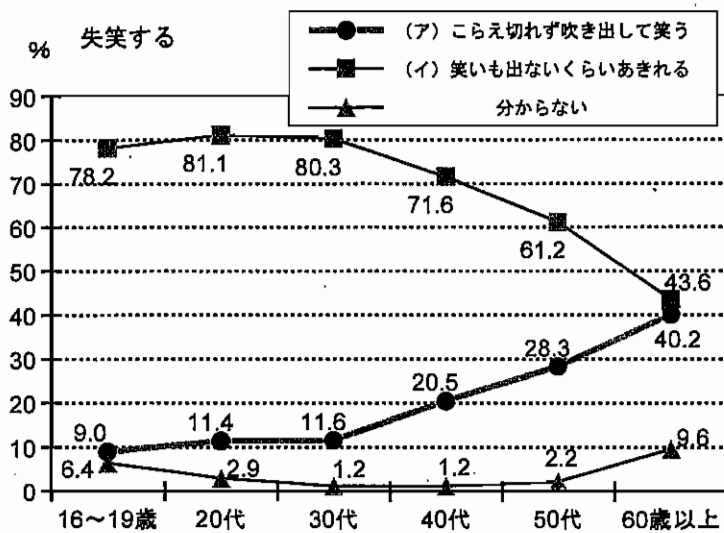
(2) うがった見方をする

全ての年代で、本来の意味ではない(イ)「疑って掛かるような見方をする」と答えた人の割合が、本来の意味である(ア)「物事の本質を捉えた見方をする」を上回っている。60歳以上では、(イ)を選んだ人の割合が4割強と他の年代に比べて低いが、その一方で「分からない」と回答した人の割合が他の年代より高く(27.6%)、(ア)「物事の本質を捉えた見方をする」(26.8%)を上回っている。

(3) にやける

全ての年代で、本来の意味ではない(イ)「薄笑いを浮かべている」と答えた人の割合が、本来の意味である(ア)「なよなよとしている」を大きく上回っている。60歳以上では(ア)と答えた人の割合が他の年代より高く、2割強となっている。



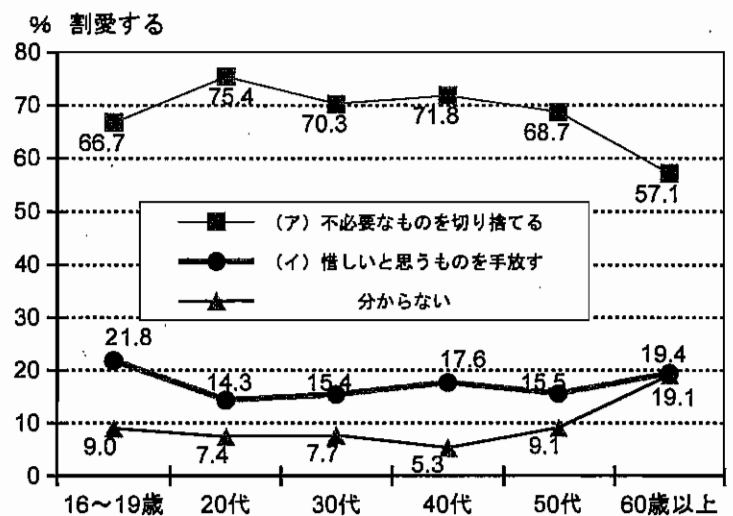


(4) 失笑する

全ての年代で、本来の意味ではない(イ)「笑いも出ないくらいあきれれる」を選んだ人の割合が、本来の意味である(ア)「くらえ切れず吹き出して笑う」を選んだ人の割合を上回っている。特に、30代以下の年代では、(イ)を選択した人の割合が8割前後と高い。一方、60歳以上では、本来の意味である(ア)を選んだ人が4割と他の年代に比べて高く、(イ)との差は3ポイントとなっている。

(5) 割愛する

全ての年代で、本来の意味ではない(ア)「不必要なものを切り捨てる」を選んだ人の割合が、本来の意味である(イ)「惜しいと思うものを手放す」の割合を大きく上回っている。



10. 慣用句等の認識と使用

どちらの言い方を使うか <問23> (P.96)

— 本来の言い方「舌先三寸」「二つ返事」を使うのは少数派 —

[全体]

二つの言い方のどちらを使うか、五つの例を挙げて尋ねた。辞書等で本来の言い方とされるものに下線を付け、また、グラフ中では———の線で示した。

本来の言い方とされる「舌先三寸」を使うという人の割合は、本来の言い方ではない「口先三寸」を大きく下回っている。また、本来の言い方とされる「二つ返事」は、本来の言い方ではない「一つ返事」を4ポイント下回った。本来の言い方でない「食指をそそられる」「のべつくまなし」を使うと回答した人は、それぞれ3割強であった。

(1) 「本心でない上辺だけの巧みな言葉」を

(a) 口先三寸	56.	7%
(b) 舌先三寸	23.	3%
(a) と (b) の両方とも使う	4.	4%
(a) と (b) のどちらも使わない	12.	5%
分からない	3.	0%

(2) 「何かを食べたくなる、転じて、あることをしてみようという気になる」ことを

(a) 食指が動く	38.	1%
(b) 食指をそそられる	31.	4%
(a) と (b) の両方とも使う	3.	2%
(a) と (b) のどちらも使わない	19.	3%
分からない	8.	0%

(3) 「ひっきりなしに続くさま」を

(a) のべつくまなし	32.	1%
(b) のべつまくなし	42.	8%
(a) と (b) の両方とも使う	1.	5%
(a) と (b) のどちらも使わない	18.	1%
分からない	5.	5%

(4) 「世間の人々の議論を引き起こすこと」を

(a) 物議を醸す	58.	0%
(b) 物議を呼ぶ	21.	7%
(a) と (b) の両方とも使う	2.	9%
(a) と (b) のどちらも使わない	12.	1%
分からない	5.	2%

(5) 「快く承諾すること」を

(a) 一つ返事	46.	4%
(b) 二つ返事	42.	9%
(a) と (b) の両方とも使う	2.	1%
(a) と (b) のどちらも使わない	6.	5%
分からない	2.	1%

〔年齢別〕

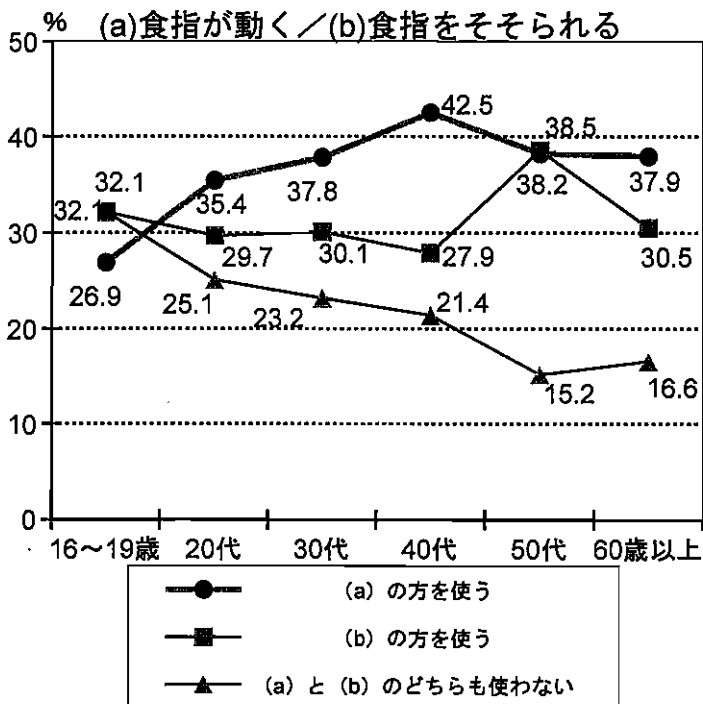
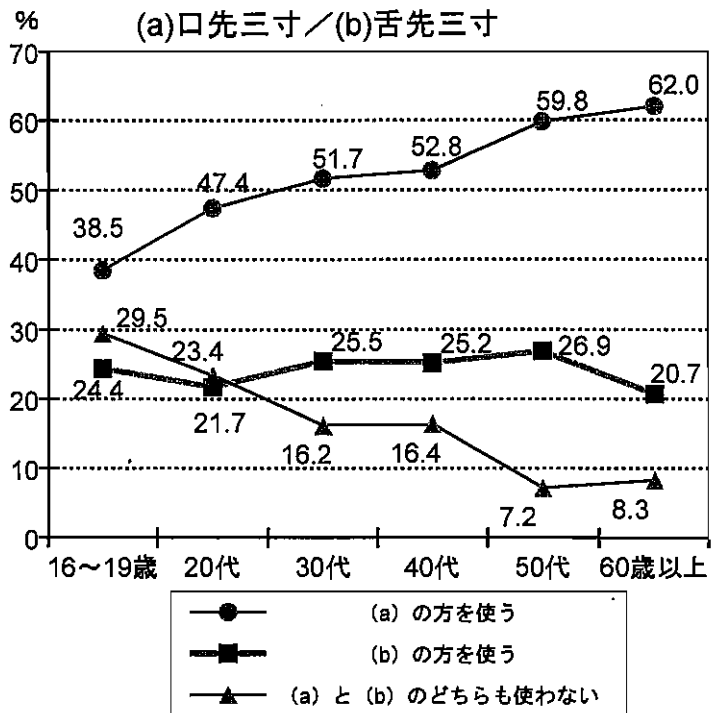
年齢別に見ると、以下のとおり。

(1) (a)口先三寸／(b)舌先三寸

全ての年代で、本来の言い方ではない(a)「口先三寸」を使うと答えた人の割合が、本来の言い方である(b)「舌先三寸」を上回っている。また、(a)の割合は年代が上がると高くなる傾向が見られる。

本来の言い方とされる(b)「舌先三寸」を使うと答えた人の割合は、全ての年代を通じて2割台にとどまっている。

「(a)と(b)のどちらも使わない」は16～19歳で3割弱、20代で2割台前半となっており、他の年代に比べて高い。



(2) (a)食指が動く／(b)食指をそそられる

16～19歳と50代を除いて、本来の言い方である(a)「食指が動く」を使うと答えた人の割合が多い。

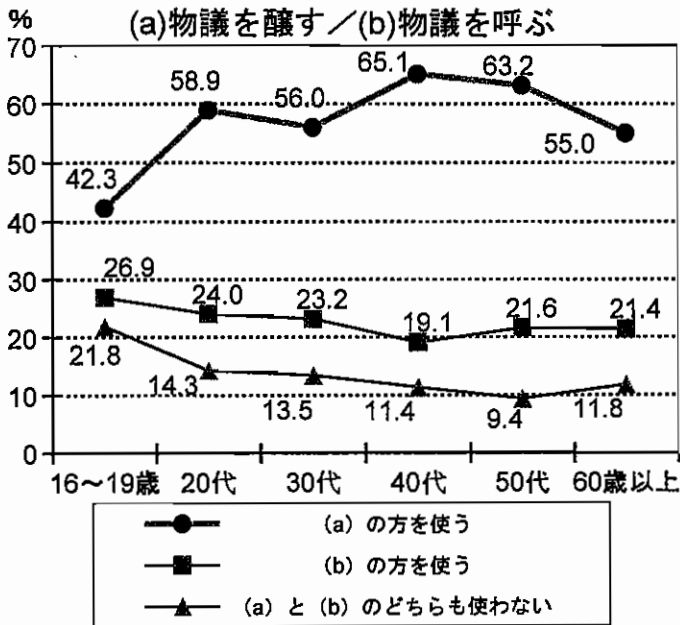
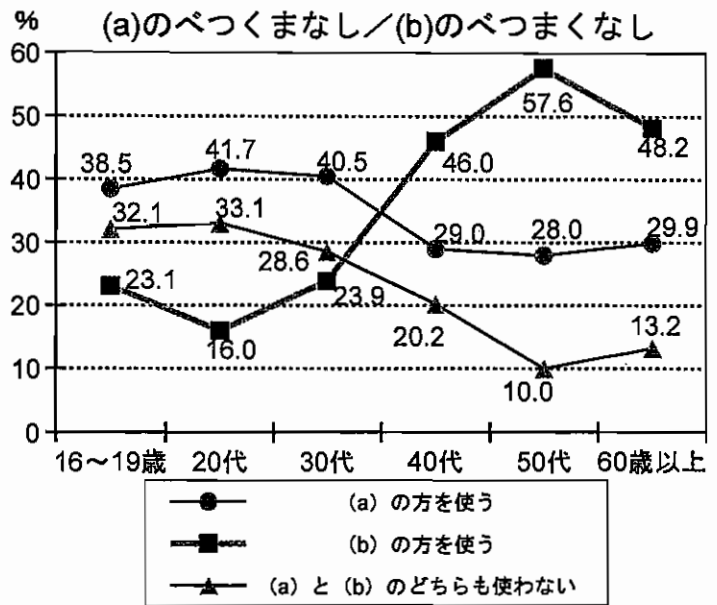
16～19歳では、本来の言い方ではない(b)「食指をそそられる」を選んだ人の割合が、(a)を5ポイント上回った。また、50代では、(b)を選んだ人の割合が4割近くとなっており、他の年代に比べて高い。

また、16～19歳では、「(a)と(b)のどちらも使わない」と答えた人の割合が、3割代前半となっており、他の年代に比べて高い。

(3) (a)のべつくまなし／(b)のべつまくなし

30代と40代を境に対照的な結果となっている。40代以上では、本来の言い方である(b)「のべつまくなし」を使うと答えた人の割合が(a)よりも大きくなっているが、30代以下では、本来の言い方ではない(a)「のべつくまなし」を使うという人の割合の方が大きくなっている。

また、30代以下では、「(a)と(b)のどちらも使わない」が3割前後となっており、40代以上に比べて高くなっている。



(4) (a)物議を醸す／(b)物議を呼ぶ

全ての年代で、本来の言い方である(a)「物議を醸す」を使うと答えた人の割合が、本来の言い方ではない(b)「物議を呼ぶ」の割合を大きく上回っている。

(5) (a)一つ返事／(b)二つ返事

50代以上で、本来の言い方ではない(a)「一つ返事」を使うという人の割合が高くなっている。また、20代~40代では、本来の言い方である(b)「二つ返事」を使うと答えた人の割合が大きい。なお、16~19歳では、(a)と(b)の割合が接近している。

「(a)と(b)のどちらも使わない」と回答した人の割合は若い年代ほど高くなっている。

